

「未来の教室」実証事業中間報告： 特定非営利活動法人TOKUSHIMA雪花菜工房



事業概要

専門高校のPBLのSTEAMs化とフォーマット化 ～カンボジアの社会課題解決プログラム～

カンボジアの社会問題（渋滞・環境衛生）を題材として、PBLのSTEMAS化（教科・科目との連動）及びそれを開発・実行できる指導教員の育成に取り組みます。将来的には、学校現場において、リアルな社会課題解決をテーマにし、且つ学習効果も大きいPBLを確立し、教科横断型の専門高校の学びを目指します。

さらにGROW教育評価システムによる評価方法の導入と、コンピテンシーなどの変化を測定し、社会課題を題材としたPBLが生徒の成長・変化に影響することを実証する。

進捗状況と今後の展望

7月の授業スタート以降カンボジアにおける渋滞や衛生環境については、専門家とのTV会議を通じた事前学習や、現地調査活動での学習効率を高めるための課題設定に取り組んで来た。教員に向けては、「ログ」を活用したPBLのSTEAMs化プログラムを実施し、校内への波及を目的とした教員の参画のきっかけ作りをし、手法についても学んでもらった。

8月には徳島商業高校の生徒、教員、専門家が現地カンボジアを訪問し調査活動を行うとともに、教員への指導方法の共有などを行った。さらには、課題解決策の提言に向けて、公共交通省、JICAカンボジア、在カンボジア日本大使館などの現地関係機関への協力依頼も行った。

9月以降は調査データの分析を専門家協力のもと、TV会議等を有効活用し定期的なミーティングを行っている。社会解決の提言に向けて、どのような切り口で解決に導くかを検討しており、さまざまな分野（数学・物理・社会など）を横断的に連動させ、学習者の意欲と興味・関心を高めながら解決に向かって取り組んでいく。

参考①) 特定非営利活動法人TOKUSHIMA雪花菜工房



中島チーム・デザインの専門家によるロゴを活用したSTEAMs化プログラム



カンボジアでの調査データを活用した課題解決プログラム

徳島商業高校の生徒と専門家（田中氏、太田氏）が現地カンボジアを訪問して実施した渋滞調査の様子